

第7章

環境教育及び市民の環境活動の促進

横浜市環境目標	<ul style="list-style-type: none">・環境教育のより一層の充実が図られるとともに、環境学習が全市的な規模で展開されている。・より多くの市民が環境への関心を持ち、様々な環境保全活動が行われている。・より多くの事業者が環境に配慮した事業活動を営み、地域での環境保全に関する社会貢献活動が行われている。
平成21年度達成状況	<ul style="list-style-type: none">・3つの重点行動(地球温暖化防止の行動、ゴミにしない3R行動、水と緑をつなぐ環境保全活動)を実践するパイロット事業を旭区若葉台地区で継続実施。・12校(小学校9校、中学校3校)で環境教育実践推進校を指定し、取組成果を環境教育・環境活動フォーラムなどで発表。・公園や河川・水辺施設、樹林地などの清掃活動などへの支援を実施。・環境活動する個人や団体への表彰の実施。・環境活動に関する情報提供(インターネット経由)を実施。

1.環境教育

(1) ヨコハマ・エコ・スクール(YES)

市民の皆様により多くの「学び」の場を提供し、環境や温暖化問題を自分のこととして考え、行動するきっかけとしていただくことを目的として、「ヨコハマ・エコ・スクール／YES」を開始しました。

大学や市民団体、事業者などの団体と連携し、「YES協働パートナー」としての参画を呼びかけ、「横浜で地球を学ぼう」をキャッチフレーズに、様々な講座の開催を促進しました。平成21年度は、本市主催34回、協働パートナー主催80回の合計114回を開催し、延べ約5,000名の皆様に参加いただきました。協働パートナーは平成21年度年度末で、54の市民団体・事業者・個人に登録いただきました。

(2) 環境教育「出前講座」

「横浜市環境教育基本方針」の取組の一環として、水や緑、環境保全などに関する環境施策(河川・樹林地・農地・公園・動物園・水再生センターなどの環境関連施設の目的や役割、大気・騒音・水質・地球温暖化防止などの環境施策情報など)に対し、市民にまず関心を持ってもらうことを目的とした環境教育「出前講座」を、平成17年度より行っています。

環境創造局職員の他、環境に関する専門知識を有する市民、あるいは企業、団体の方々などが講師となつて地域や学校に直接出向いて講義を行います。

小学校向けに実施する学校版と地域の要望・要請

に応じて随時行う地域版とがあり、平成21年度は学校版で122回、地域版で19回の講義を実施しました。

なお、環境創造局職員の環境問題への意識を高めるとともに、出前講座の講師として必要なスキルを学び、環境活動の実践を学校、市民活動団体、あるいは企業など、様々な活動主体へ積極的に働きかけることのできる人材を育成するための研修を平成17年度より実施しています。

(3) 環境教育実践推進校の取組

12校(小学校9校、中学校3校)の推進校で研究を進め、環境教育・環境活動フォーラムや、公開授業研究会、教職員環境教育研究会で、その研究成果を発信しました。

また、推進校の研究などを基に、指導資料集「環境教育カリキュラム・マネジメント編Ⅲ」を作成しました。

(4) 「こどもエコフォーラム」の開催

環境学習の一つとして、子どもたちが環境について多角的に考えてゆく機会として、市内の小中学校を中心とした環境活動発表会である「第5回こどもエコフォーラム」を、教育委員会と共同して市立横浜サイエンスフロンティア高等学校で平成22年2月27日(土)に開催しました。



(5) 子どもアドベンチャー

横浜市及び横浜市教育委員会では、学校の夏休み期間に、市役所、公的機関、民間企業の職場見学や体験学習ができる「子どもアドベンチャー」を開催しています。この中で、身近な「環境」体験の場を提供しています。

(6) 子ども省エネ大作戦

「夏は夏らしく過ごそう2009」の取組の一環として、市内の小学生31,236人が夏休み期間中に省エネ行動に取り組みました。その取組成果を市内企業が協賛し、集められた寄付金をWFP国連世界食糧計画が、地球温暖化対策に有効な植林事業に活用しました。

(7) 動物園における環境教育

動物園の役割は、①絶滅の恐れのある野生動物の保護・繁殖(種の保存)、②動物の遺伝子や生理・生態などの調査・研究、③自然環境や野生生物に関する教育普及活動、④くつろぎや憩いの場を提供するレクリエーション機能、の4つがあります。

横浜市の3つの動物園では、それぞれの動物園の特色を生かしながら、この役割に沿った活動を行っています。

各園で特に力を入れているのが、動物を通じての環境教育です。それぞれの特徴を生かした教育プログラムを行っているほか、3園共通のプログラムの一つとして飼育体験があります。これは動物園で飼育職員が行っている動物舎の清掃やエサの用意を体験するプログラムで、毎年多くの参加者があり、野生生物や環境についての理解を深めることに役立っています。

また、学校教育とも連携を図り、ワークシートの作成や配布、出前講座など、子どもたちの環境への意識を高めるきっかけを提供しています。

ア 横浜市立よこはま動物園(ズーラシア)

「生命との共生・自然との調和」をメインテーマに世界の気候帯別に動物たちが暮らしている環境を再現した展示方法を導入しており、園内は動物、植物、人の文化を織り交ぜながら世界の環境を演出しています。平成21年4月には新たに「チンパンジーの森」をオープンし(図7-1)、6月にはインドネシアから

導入したテングザルを公開しました。

また、園内には繁殖に関する調査・研究を主業務とする横浜市繁殖センター(非公開)があります。



図7-1 チンパンジーの森

イ 横浜市立野毛山動物園

昭和26年の開園以来、「都心のオアシス」として半世紀以上にわたり市民の皆さまに親しまれています。分園の万騎が原ちびっこ動物園とともに、動物たちとのふれあいコーナーは人気であり、モルモットやマウス、ヒヨコなどの小動物に直接触れる貴重な経験をすることができます。

また、動物の食事時には、飼育職員が解説を行なう「お食事タイム」を行い、エサを食べる動物を間近に見ながら、動物について学ぶ機会を提供しています。

ウ 横浜市立金沢動物園

緑豊かな金沢自然公園内に位置する動物園で、コアラやサイ、ゾウなどの草食動物を中心に飼育・展示しています。平成21年8月には希少種インドサイの繁殖に成功しました(図7-2)。

また、学習施設「ののほな館」では、動物や自然に関する資料をご覧いただけるほか、教育普及プログラムや各種企画展を開催しています。

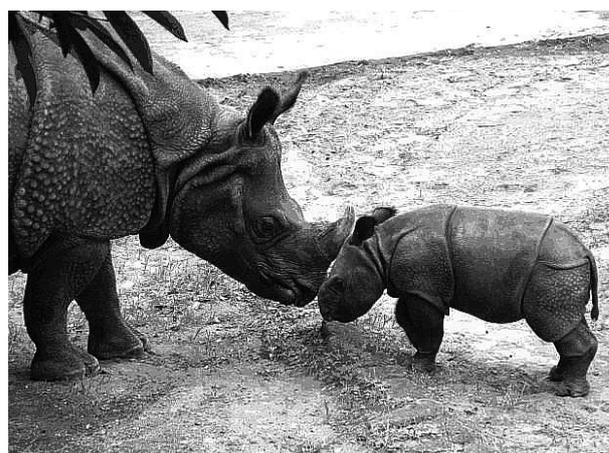


図7-2 希少種インドサイの繁殖

特集
横浜の生物多様性
第1章
地球温暖化対策の推進
第2章
自然環境の保全
第3章
少負荷型都市づくりの推進
第4章
良好な都市景観の保全
第5章
公善(生活環境)対策の推進
第6章
資源循環型まちづくりの推進
第7章
環境教育及び市民の環境活動促進
第8章
市役所の環境保全に向けた自主的な取組の推進
第9章
環境分野における国際的連携の推進
各区役所の環境施策
付属資料

2.市民協働による取組

より多くの市民や事業者が環境活動に参加できるように、また、すでに活動している市民活動団体などの環境活動がさらに進むように、市民・企業と協働した取組を行いました。

(1) 環境月間パネル展

市民活動団体、企業の環境に関する取組を紹介するパネル展を開催しました。

- ①平成21年6月2日～14日
(東京ガス環境エネルギー館、22団体・12企業参加)
- ②平成21年6月15日～26日
(市庁舎1階市民広間、11団体・5企業参加)

(2) 環境活動展

6月の環境月間しめくくりのイベントとして、ステージでの環境活動賞表彰式や環境プログラム、パネル展などを実施し、市民が楽しみながら環境について学べる「環境活動展」を開催しました。

平成21年6月27、28日
(クイーンズスクエア1階クイーンズサークル、22団体、11企業、17小・中学校等)

(3) エコハマ省エネ実践モデル事業

各家庭における、電気・ガス・水道・ガソリンなどの使用量からCO₂の排出量を知るとともに、省エネ行動の結果どれくらいのCO₂の排出を削減できるかが実感できる「環境家計簿」を、市内の自治会町内会、環境事業推進員や消費生活推進員、各種団体など、約

10,000世帯に協力いただきました。

平成20年と21年との比較を行った世帯(2,062世帯)では、電気・ガス・水道のデータを集計したところ、CO₂排出量が前年比で38,518kg、割合にして1.9%削減されたことが確認できました。

(4) 環境まちづくり協働事業

市民活動団体などが提案する環境に配慮した事業で、協働して進めることにより、事業効果が高まると考えられるものを選考し、双方の役割分担を確認したうえで実施しました。(平成21年度2事業)

(5) ESD*の推進

横浜市では、市民、NPO/NGO、大学、企業、行政などによる環境教育や環境活動が盛んに行われています。持続可能な社会の実現を目指して、これらの主体の連携を強化し、地域のESDを進めていくための拠点として、横浜市は平成18年4月、国際連合大学からRCE***横浜として認定を受けました。RCE 横浜は、さまざまな主体の情報交換や交流を図る場として、シンポジウムの開催や、インターネットを活用した情報提供・共有など、ESDに取り組む人たちが協働できる場を推進しています。

※ESD=Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育

***RCE=Regional Centres of Expertise：持続可能な開発のための教育を推進するため、国連大学が認定している地域拠点

3.環境活動への支援

より多くの市民や事業者が環境への関心を高め、環境活動が行われるように、市民活動団体や企業に対して支援を行いました。

(1) 環境活動に寄与する団体への助成・支援 ア 横浜市環境保全活動助成金

市民活動団体が行う自主的な環境保全活動(自然環境の保全創造、水辺環境の活性化及び整備、環境美化及び緑化、都市環境の改善、省資源、省エネルギー及びリサイクルなど)を行っている市民活

- 特集
- 横浜の生物多様性
- 第1章 地球温暖化対策の推進
- 第2章 自然環境の保全
- 第3章 少負荷型都市づくりの推進
- 第4章 良好な都市景観の保全
- 第5章 公害(生活環境)対策の推進
- 第6章 資源循環型まちづくりの推進
- 第7章 環境教育及び市民の環境活動促進
- 第8章 市役所の環境保全に向けた自主的な取組の推進
- 第9章 環境分野における国際的連携の推進
- 各区役所の環境施策
- 付属資料



物品の提供や活動に必要なノウハウの提供を行うなどの支援を実施しています。

ウ 水辺愛護会

河川や水辺施設的环境を良好に保ち、市民の皆さんが快適にふれあい、親しむことができるよう、地域団体(水辺愛護会)に対して、清掃、除草等の活動経費の一部を助成し、支援しています。

エ 森づくりボランティア

緑地の保全活動に関わりたいという団体を「森づくりボランティア団体」として登録し、土地所有者のご協力を得ながら活動ができるよう支援しています。支援内容は、森づくり活動に関する研修の機会の提供や森づくり活動に関する情報の提供(よこはまの森ニュースレターの送付)などです。

※ここでは、横浜市所有の緑地、市民の森、特別緑地保全地区、近郊緑地特別保全地区、公園内の樹林地を総称して「緑地」と呼んでいます。

オ ハマロード・サポーター

地域の身近な道路を対象に、地域のボランティア団体と行政が協働して、身近な道路の美化や清掃等を行っていく制度です。地域の皆さんの活動が円滑に行えるよう、清掃用具などの必要物品の提供や収集したゴミの回収及び処分等を支援しています。

(2) 横浜環境活動賞

環境保全に顕著な功績のあった市民活動団体・企業などを表彰しました。(平成21年度:市民の部7団体、企業の部1事業所、学校4団体)

(3) 公園愛護会表彰

長年にわたり公園愛護会の中心となって活躍された方々と、公園の維持管理、地域まちづくり、自然環境の保全・活用などの積極的な活動を行っていただいた公園愛護会を表彰しました。

【継続性の部】42名

(4) インターネットによる環境活動情報の発信

(よこはま環境行動情報サイト「エコぼると」の運営)

特に市民ニーズの高い環境活動に関する情報を一元化し、市民が容易に入手できるようにすることを目的として平成16年4月に開設された「環境行動情報サイト」をリニューアルしました。サイトのタイトルも「エコぼると はじめよう! 『行動する私』環境の港から」とし、各種イベント情報に加え、環境活動団体リスト「やってみよう」をリニューアルしました。
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kkjs/>)

特集
横浜の生物多様性
第1章
地球温暖化対策の推進
第2章
自然環境の保全
第3章
少負荷型都市づくりの推進
第4章
良好な都市景観の保全
第5章
公害(生活環境)対策の推進
第6章
資源循環型まちづくりの推進
第7章
環境教育及び市民の環境活動促進
第8章
市役所の環境保全に向けた自主的な取組の推進
第9章
環境分野における国際的連携の推進
各区役所の環境施策
付属資料

第7章 環境教育及び市民の環境活動の促進

表7-1 平成22年度 第18回 横浜環境活動賞表彰者・団体

●市民の部(大賞1件 実践賞10件)

	団体名	活動概要
大賞	市沢・仏向の谷戸に親しむ会	【活動地域】保土ケ谷・旭区 【会員数】31名 【活動開始】平成元年5月 仏向や市沢の谷戸の水辺や樹林地を中心に、水辺と周辺の清掃・整備、草刈り、花植えなど美化啓発活動を積極的に実施するとともに、多くの市民を対象に観察会、生き物植物調査、炭焼き、畑作り体験研修などを行い環境教育に貢献しています。
	北八朔公園愛護会	【活動地域】緑区 【会員数】50名 【活動開始】平成11年5月 小・中学生を含めた付近住民を対象としたイベント(どんどこ焼き、鯉のぼり、開園記念行事、七夕飾り、リースづくりなど)を開催。
	いたち川と親しむ会	【活動地域】栄区 【会員数】15名 【活動開始】昭和62年4月 いたち川いかだまつり(平成21年度で19回目)やシンポジウム、ハイキング、水質調査、清掃活動などを実施。
	瀬上の森パートナーシップ(SMP)	【活動地域】栄区 【会員数】25名 【活動開始】平成17年7月 一年を通して環境調査(50回)、観察会(3回)、シンポジウム(1回)を実施。 環境保全活動の要素である「調査」「管理」「啓発」のバランスを考えながら順応的管理を実施。
	鴨居駅周辺まちづくり研究会	【活動地域】緑区 【会員数】48名 【活動開始】平成11年4月 自治会等の主催の清掃・森作りに参加(42回)、「鴨居エココン(ミニコンサート)」の開催(3回)、まちづくり講演会の開催(1回)、地域の子どもにおもちゃ作りを指導、小学校の清掃活動のサポート。
	鶴見川下流ネットワーク・鶴見	【活動地域】鶴見区 【会員数】市民団体10団体のネットワーク 【活動開始】平成9年12月 定期活動として河川敷清掃、植生管理型草刈り、生物調査等を実施。生き物観察、クリーンアップ作戦、サマーフェスティバルいかにだ・カヌー天国、つるみ川新春ウォーク等のイベントも随時実施。
	都田江川水辺愛護会	【活動地域】都筑区 【会員数】50名 【活動開始】平成9年9月 児童が学校で育てたチューリップの球根を児童と共に植えたり写生大会を行うなど小学校と連携した活動を実施。
	若葉台連自治会	【活動地域】旭区 【会員数】連自治会役員100名 【活動開始】平成19年4月 シンポジウム・キャンドルナイト・水質調査・植物鳥類調査などを学校・住民と実施。 地域内商店街との連携により環境基金を創設し、その寄付金を自治会活動に活用。
	瀬谷環境ネット	【活動地域】瀬谷区 【会員数】56名 【活動開始】平成18年12月 瀬谷元気プロジェクト事業で助成を受けながら10回のイベントを開催。 上瀬谷小学校への稲作体験支援や先生向け講演会「生き物いっぱい米作り」の実施。
	奈良川源流域を守る会	【活動地域】青葉区 【会員数】41名 【活動開始】平成8年3月 奈良町第一公園での定点観測、鳥類の個体調査(毎週土曜日)を実施。 小学校へ総合学習の一環として里山観察会の説明役として参加。
福田 誠一郎氏(個人)	【活動地域】横浜を中心とした世界各地 【活動開始】平成14年6月 Y150ヒルサイド市民創発プロジェクトリーダーとして、水をテーマとした体験型プログラムを実施。 関東学院大学環境サークルHEP(平成18年度HEPとして横浜環境活動賞を受賞)を設立。	

●企業の部(大賞1件 実践賞7件)

	団体名	活動概要
大賞	株式会社 大川印刷	【所在地】戸塚区 ISO14001 2002年10月 取得 深刻な地球環境の悪化に対し、行動する責任と義務を持った「一地球企業(=地球の中の企業)」として、営業車をハイブリットカーに、04年からカーシェアリングを実施。自社のCSR活動レポート等の印刷工程で排出されたCO ₂ を「十勝千年の森」に植樹するカーボンオフセット等、環境負荷低減を考慮した事業展開を継続して行っています。
	株式会社 横浜消火器株式会社	【所在地】磯子区 消火器の消火薬剤量と同量のCO ₂ 削減分の「カーボンオフセット付消火器(ECOする消火器)」の販売。 消防設備の消費電力に伴うCO ₂ 分を植林又は排出権によるカーボンオフセット(ECOする点検)を実施。
実践賞	株式会社 横浜フリエスポーツクラブ	【所在地】戸塚区 ISO14001 2008年3月取得 スタジアムの地元「かながわ区民DAY(7/26)」、「クールアースデー・マッチ(7/5)」でカーボンオフセットを実施。 サッカー教室で年間約80校の小学校を訪問し、ECO意識向上のリーフレット(キッズブック)を配布。
	株式会社 岩井の胡麻油株式会社	【所在地】神奈川区 省エネ型空調設備、照明器具を採用。電気使用量はH18年対比、H21年で約82%、最大電力は同H21年で約85%の省エネを達成。
	スーパーホテル 横浜・関内	【所在地】中区 ISO14001 2010年11月 取得予定 「エコ泊」活動として客室1室当たり6.82kgのCO ₂ 排出量をカーボンオフセットする活動。 お客様参加型の「エコひいき」活動の実施。
	旭硝子株式会社 中央研究所	【所在地】神奈川区 ISO14001 2000年7月取得済 所内の談話室を「エコルーム」に改装し、環境関連図書、DVD等が閲覧可能。 事務用品リユース促進運動により文具の購入が大幅に減少。
	株式会社 野毛印刷社	【所在地】南区 ISO14001 2003年9月取得 LCAに基づき全行程での環境配慮化を推進。 ECO検定の受検奨励による従業員の環境教育を実施(合格者61/94人)。



	団体名	活動概要
実践賞	東京電力株式会社 横浜支社	【所在地】西区 事務用品のグリーン購入は社内目標98%に対し98.2%を達成。 地域住民を対象として火力、水力、原子力発電所見学会を実施。

●児童・生徒・学生の部(大賞1件 実践賞1件)

	団体名	活動概要
大賞	横浜市立汐見台中学校・環境美化委員会と全校生徒	【活動地域】磯子区 【会員数】生徒486名 【活動開始】18年4月 地域・関連企業と協力しながら省エネ生活の推進やソフトエネルギーの導入を進め、校舎周辺や屋上などに苗から育てた樹木500本の植樹、屋上、校舎周辺のビオ・ガーデン化、サンクチュアリー化、ゴーヤ等による緑のカーテン等、身近なことから地球環境の保全や回復に向けた環境活動をすすめています。
実践賞	横浜市立朝比奈小学校・わくわくホタル池守り隊	【活動地域】金沢区朝比奈小学校裏山(わくわくホタル池) 【会員数】20名 【活動開始】平成12年7月 ホタルの生育環境の保全活動及び幼虫の飼育、観察活動。 子供たちによる、ホタル鑑賞会の計画・運営、横浜市立大学における学習発表会に参加。

※団体のデータは、平成22年3月のものです。

コラム 13 市民創発・環境行動フォーラム2010 ～都市型エコライフスタイルのすすめ～

◎開催概要

平成21年に開催された横浜開港150周年記念事業「開国博Y150」では、多くの創発的なプロジェクトが実施され、多様な市民のつながりが生まれました。特に、ヒルサイドエリアでは、地域と密着した持続可能な取組として行おうとする多くの市民を生みだしました。このヒルサイドイベントで培われた市民力をさらに定着させ、発展させていくために、平成22年6月5日(土)・6日(日)

に環境月間のコアイベントとして、アート拠点 BankART Studio NYKで「市民創発・環境行動フォーラム」を開催しました。

当日は54もの市民活動団体・企業等によるブースが出展されるとともに、ステージプログラムや地場野菜の販売が行われ、多くの参加者が様々な体験を通して環境への「気づき」や「行動」へのきっかけを持ち帰りました。



展示の様子



BankART Studio NYK



ステージプログラム



地場野菜の販売

特集

横浜の生物多様性

第1章

地球温暖化対策の推進

第2章

自然環境の保全

第3章

少負荷型都市づくりの推進

第4章

良好な都市景観の保全

第5章

公害(生活環境)対策の推進

第6章

資源循環型まちづくりの推進

第7章

環境教育及び市民の環境活動促進

第8章

市役所の環境保全に向けた自主的な取組の推進

第9章

環境分野における国際的連携の推進

各区役所の環境施策

付属資料